

# 令和元年度 「市長と語る市政懇談会」記録



## 幡豆地区

令和元年7月11日（木） 午後6時30分から

幡豆いきいきセンター〔つつじホール〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

## 出席者等

懇談会の地区代表者	幡豆小校区：天野浩明代表町内会長
校区代表町内会長	東幡豆小校区：尾崎秀樹代表町内会長
地区関係市議会議員	鈴木武広議長、永山英人議員、渡辺信行議員、大塚久美子議員
市関係者	中村市長、長島副市長、稲垣教育長、 近藤総合政策部長、齋藤総務部次長、宮地危機管理局長、 築瀬資産経営局次長、岩瀬健康福祉部次長、山口子ども部長、 山崎市民部長、黒野幡豆支所長、加藤産業部長、打田産業部参事、 鈴木環境部次長、吉田建設部次長、榊原上下水道部長、 西尾市民病院事務部次長、内藤教育部次長、近藤消防署長 事務局：細田秘書広報広聴課長、高須秘書広報広聴課長補佐ほか 3名
出席者数	市民84人、地区関係市議会議員4人、市関係者24人、 報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分7件 内訳：要望2、質問4、提案1
自由意見等	整理区分11件 内訳：意見1、質問4、要望6

## 令和元年度 「市長と語る市政懇談会」(幡豆地区)

### ○細田秘書広報広聴課長

皆様、こんばんは。

私は、この懇談会の事務局を務めます秘書広報広聴課長の細田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は出席者がクールビズの推奨により、ノーネクタイの軽装でありますこと、また、特産品やイベントのPRポロシャツを着用しておりますことを御了承ください。

それではお時間になりましたので、ただいまから市長と語る市政懇談会、幡豆地区を開会いたします。

初めに、本日の出席者を御紹介いたします。

この懇談会の開催に当たり、多大なる協力を賜りました幡豆地区の代表町内会長の皆様で、幡豆小学校区の天野浩明様、東幡豆小校区の尾崎秀樹様、以上の皆様でございます。

また、市議会からは、鈴木武広議員、永山英人議員、渡辺信行議員、大塚久美子議員、以上の皆様に御出席をいただいております。そして、市からは、中村市長初め、長嶋副市長、稲垣教育長、そして関係部局の部長、部次長が出席をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の予定を御案内いたします。

このあと、15分程度の時間で市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、事前にお聞きいたしました御意見や御質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

また、地区取りまとめの御意見等とは別に、参加者の皆様から広く御意見等をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対する御提案や御意見、その他、地域の困りごとや関心ごとなどございましたら、御発言をいただきたいと思います。

皆様との懇談のお時間は、午後8時15分までとさせていただきます。その後、若干の連絡を申し上げまして、閉会とさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

なお、懇談会の途中、休憩時間は設けませんが、会場出入口を開けておきますので、必要に応じて入退出をいただければと思います。

また、記録用として、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきますことを御了承ください。

それでは、市長から御挨拶を兼ねて市政運営について御説明申し上げます。

### ○中村市長

皆さん、こんばんは。西尾市長の中村 健でございます。

本日は、幡豆地区の市政懇談会に御参加いただきましてありがとうございます。

この地区別の市政懇談会につきましては、2年に1度開催しているものでありまして、今年度は開催年ということで、市内全10カ所で開催をさせていただきます。せっかくの顔を合わせての懇談の場でございますので、相互理解の深まる有意義な場としたいというように思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

市政運営についてお話をする前に、少し豚コレラの状況について報告をさせていただきます。

6月28日に、養豚農家の方から異常が疑われる豚の報告がありまして、翌日、検査のほうで陽性というように受けて、豚コレラ発生という報道がされました。以後、市としても、愛知県の指導に従って、いわゆる防疫措置と呼ばれます豚の殺処分ですとか、あるいは豚舎の消毒とかということをやっていると行ってまいりました。7月9日ですので、今週火曜日にその防疫措置というものが完了いたしましたので、まずは本件についてはひと安心という状況なのかなというように思っています。新しい豚コレラ発生については、報告がされていませんし、また、豚コレラ自体は人体には影響がないものでありますの

で、基本的には一般的な市民生活には影響がないものでありますけれども、ただ養豚農家の方々からすれば、大変大きな問題でありますし、国の政策によってワクチンが摂取されていない状況でありますと、今後、同じような被害が発生しないとは言えない状況でありますので、引き続き対策をしていく必要があるわけではありますが、まずは、今回の件については、ひと段落ついたということで、御報告申し上げたいというように思います。

続いて、市政方針について少しお話をさせていただきたいと思いますが、ここからは座って失礼いたします。

お手元の資料の中で、A3サイズの令和元年度市政方針に掲げる主な事業というものが両面刷りであるかと思えます。こちらに従って、少しお話をさせていただきたいと思いますが、時間の都合もありますので、全てをほぼ説明させていただく時間がないということで、僕のほうで特に幡豆地区に関係するものなどを中心といたしまして、いくつかピックアップをしながら、お話をさせていただきたいなというように思います。

まず、一番右上のところに「多様性が輝く行政のまちづくり」という文言があるかと思えます。これは、今年度の市政運営のスローガンでありまして、ここに込めた思いといたしましては、世の中、年齢性別ですとか、国籍だとか障害のあるなしだとかも含めて、いろいろな人によって違いがあるのですけれども、そういった違いに対して色眼鏡で見るのではなくて、その違いを認めつつ、お互いの存在を尊重して、支え合っていくような、そういうまちづくりをしていきたいという思いを込めて、「多様性が輝く共生のまちづくり」という文言にしました。この多様性とか共生というところだけを市としてやっていくわけではないのですけれども、ただこの分野については、特に力を入れて取り組んでいきたいという、そういう考えであります。

続いて、大きな見出しの最初の「活力と魅力あふれる産業づくり」というところを見ていただきたいと思います。3行目のところに、稚貝放流事業や有害生物の捕獲駆除などアサリ資源の再生と育成の促進を支援とあります。御存じの方も少なくないかもしれませんが、今、アサリの水揚げ量というか生産量といいますか、非常に落ち込んでおりまして、一番取れた5年ほど前を100とすると、今がもう10もいかない状況であります。昨年度が一番悪くて、それに比べると今年度は少し持ち直したのですけれども、ただ、一時の一番いい状況に比べると、まだまだという状況でございます。この幡豆地区においては、潮干狩りなどが今年ではできて、ある程度アサリも取れたというように聞いていますが、ただ三河港のアサリの状況ということで考えますと、依然として予断を許さない状況であります。

この点については、県と連携をしながら各種の対策を講じている状況でありまして、1つには海がきれいになりすぎて栄養が少なくなってしまうとかということもあったりだとか、あとは害虫ですね、ウミグモという害虫が発生したりということで、要因は複数考えられるのですが、これをやれば必ずアサリの資源が回復するというのが抜本的にあるものではないので、1つ1つ対策を講じながら、また、しっかりとアサリ資源が復興できるようにという形で取り組んでまいりたいというように思っています。

あと、続いて3行下がっていただいて、ふるさと応援寄附金制度により西尾市の魅力を広く全国にPRとあります。これがいわゆるふるさと納税制度というものでありまして、良い悪いを言うときりがありませんが、いろいろ過剰な競争などがこれまでであった中で、6月から規制が国の方から入りまして、ある程度健全な競争ができるという状況になりました。

西尾市を見ますと、先ほど申し上げましたアサリですとかあとは抹茶、ウナギなどを初めとする特産物ですとか、後は温泉などもありますし、自然も豊富にあるということで、観光資源には事欠かないまちだと思っております。ですので、ふるさと納税としての引き出しというか、ネタ自体はたくさんありますので、それをうまく全国の方々にPRしながら寄附金を集められるようにということで、これについても特に力を入れていきたいと思っています。

ちなみに、まだ、今年度始まって3カ月ぐらいしかたっていませんけれども、昨年度に比べると2倍近くの伸びがあるということで、順調にいけば非常にいい状況になるの

かなというように思っておりますけれども、これについても力を入れてまいりたいなというように思っています。

続いて、2番目のところの利便性と快適性を高める基盤づくりというところで、これは主にインフラの整備の関係になりますけれども、まず、国道23号線については、現在蒲郡から豊川為当というところがまだ開通していない状況でありまして、これは地権者の方の同意がいくつかいただけていないというのが一番大きい原因なのですけれども、土地の強制収用なども含めて国のほうでいろいろ対策を考えている状況でありまして、何とか目処がつきそうな状況であるというように聞いています。具体的に、いつになったら開通できるんだという、はっきりしたことは国も言わないのですが、五、六年ぐらいで何とかなるのかなと、個人的な感覚も含めてそういう状況であります。

西尾市においては、西尾東インターから西の区間は4車線化しておりますが、そこから東はまだまだ2車線という状況で、やはりこれが全線的に4車線になることによって、大きな効果を生む道路でありますので、引き続き、全線の4車線化、特に西尾東から東の区間について、国に対して今後とも粘り強く整備を要望していきたいなというように思っています。

あと、この中で西尾幡豆線という路線があります。これが幡豆のほうからずっと西尾に向けて行って、途中で友国を通ったりとか、横須賀を通過して、福地をという道路でありまして、現在、横須賀のところから川を超えるための橋を作っている状況にあります。これは、県のほうで計画的に進めて行っていただいているのですけれども、まだまだつながらるまでには四、五年ぐらいはかかりそうな状況でありまして、こちらについても合併効果がすごく発揮できる道路でありますので、少しでも早い整備に向けて、愛知県に対して粘り強く要望をしてまいりたいというように思っております。

あと、この見出しの下から4番目のところを見ていただいて、名鉄西尾蒲郡線活性化協議会の云々というように書いてあります。後ほど、少し御質問をいただいているのですけれども、名鉄の西尾蒲郡線の存続が令和2年度まで、今のところ存続をしています。この令和3年度以降について、名鉄とその期間を更新できるようにこれから協議に入る訳でありますけれども、やはり西尾市にとってこの鉄道路線というのは、生命線でありまして、これが万が一、廃線ということになりますと、非常に打撃が大きいものですから、これは何としてもでも死守するという既に覚悟で名鉄のほうと協議に臨んでいきたいなというように思っていますので、よろしく願いいたします。

次に、3番目の見出しの「地域を支える文化と人をはぐくむ環境づくり」というところでもあります。2行目に同一世帯で同時に2人以上が利用する場合、2人目以降の児童クラブ保育料半減というようにあります。共働き世帯も増えてきていて、子どもたちが授業後に学校のほうで児童クラブを利用するという方々も増えています。同時に2人以上が利用していると、経済的な負担が大きいものですから、こちらについては今年度から2人以降の児童クラブの保育料半減ということをやらせていただいたりだとか、次に特定不妊治療費及び男性不妊治療費に対する助成制度の拡充とあるのですけど、専門的な医療を受けて、妊娠するために専門的な医療を受ける方が今、すごく増えておりまして、その治療にも幾つか段階があるのですけれども、特定不妊治療と呼ばれる治療になりますと、1回の治療で40万円、50万円とか場合によってはもっとする状況があって、1回の治療によって受精しないこともありますので、そういった意味で非常に経済的な負担が大きいというところで、これに対して市としての助成を大幅に拡充いたしまして、最大で初回20万円という形で、これに加えて県の補助制度もありますので、そちらをご利用いただくと大分、経済的な負担は軽減されるのかなというように認識しております。

次に3つ目の星の「学校施設の整備」というところの最初のところでもありますけれども、児童生徒の学習環境を改善するため、全ての小中義務教育学校普通教室へのエアコン設置とあります。ことしは今のところそれほどまで猛暑ではないのですけれども、去年を思い出していただくと非常に暑くて、ここ西尾市でも多分38度、39度ぐらいになった日が何日もあったと思います。豊田市のほうでは、郊外活動をしてその暑さが原因で命を落とした子どもも発生してしまった訳でありますけれども、暑さ対策と子どもの学習環境の整備ということで、本年度中に小中学校と佐久島の義務教育学校を含めて、全

普通教室へのエアコンの設置を完了できるようにすることで、今、手続を進めています。残念ながら本年度の夏については、少し間に合わないかもしれませんが、スケジュールが遅れることがないように取り組んでいって、来年の夏には快適な環境で子どもたちに勉強していただけるようにということで、進めていますのでよろしく願いいたします。

次に、裏面を見ていただきまして、「安心できる暮らしを支える健康福祉のまちづくり」というところがございます。1行目と2行目のところで、西尾市民病院の事について記述があります。西尾市民病院については、特に昨年度1年間のほうで、抜本的なあり方という議論をしてまいりました。市政懇談会なども開催する中で、市民の皆様方の御意見もお聞かせいただいたのですけれども、昨年度末に碧南市民病院に対しては、両病院、2病院を存続させた上で、経営母体、経営自体は統合するという提案をさせていただきました。それに対して、碧南市側からは、その効果が出るように調査研究を進めていきたいということで、結論としてどうなったかということが出たわけではないのですが、今後、調査研究を進めていく中で、また状況などを御報告させていただきたいと思いません。そうした統合するか否かというところ以前の段階で、やれるところの連携を深めていこうということで、例えば、薬品の共同購入をするだとかということについては、今、具体的に協議をしているところでありまして、実現できるものについては、1つ1つスピーディーに対応していきたいなと思っています。そうした根本的なあり方と別に、当面の状況として経営が厳しい状況は変わりがないので、目先の経営改善も図っていかないと、というように思っています。コンサルタントなども入れる中で、経営改善に向けた計画を策定していますので、そちらを1個1個着実に実行していくことが1つと、あとは経営がなかなか上向かない一番の理由は、やはり医師が足りないということでありまして、ドクターについては、主な供給源となるのが大学の医局ということになりますので、その大学の医局に対しては、西尾市民病院の現状だとか、西尾市の地域医療の状況をしっかり伝えた上で、医師の派遣の要請を僕自身も何度か行く中で、お願いをしています。具体的なドクターの派遣につながった例もあるのですが、大学の側もそうドクターに余裕があるわけではないということで、なかなか思うような状況にはいかないかもしれませんが、大学のほうにかけ合うということが一番効果的な方法であるということに変わりはないので、引き続きそういったところについても、粘り強く話をしていきたいなというように思っています。

次に、大きな見出しの「安全とうるおいのある環境づくり」というところをごらんください。

3番目に防災無線の放送内容や緊急速報メールの内容を確認することができる防災アプリの供用を開始とあります。

昨年度、大きな台風が3つ西尾市に接近をいたしまして、西尾市として初めての避難勧告というものをしました。現在、こういう状況ですよとか、お伝えする手段として、防災行政無線とうのがあります。防災行政無線については、屋外に出ていたりすればある程度音声聞こえるのですが、屋内にいたりだとか雨戸などを閉めたりすると正直、多分聞こえないと思います。こちらの性能を上げて、聞こえるようにするというのは、なかなか現実的には難しい話であって、そういう方法を取るよりは、防災行政無線は防災行政無線であるのだけれども、それ以外の方法もいくつか用意する中で、市民の皆さんに情報をしっかり伝達していきたいということで、今回スマートフォンをお使いの方も多いため、スマートフォン用のアプリというものをつくりました。そちらの中で、防災に対する情報だとか、AEDの設置場所とかということも含めて、いろいろな防災情報が入手できるようになっています。大きな災害が、例えば台風とかが近づいたときに警報が出ていますよとかということも、そちらから情報が入手できるようになっていますので、ぜひ一度、インストールというものをやっていただきたいなということと、あとはインターネット上のホームページだとか、キャッチさんの情報なども含めて、いくつか情報をお伝えする方法は使っておりますので、その中で一番御自身の家庭で適切な方法で入手をしていただきたいなというように思います。

あと次に、下から3行目のところの岡崎、西尾、幸田で協議を進めている広域新焼却

施設の建設に向け、立地場所を決定というようにあります。吉良の岡山のところに今、クリーンセンターがあります。要はごみ焼却場なわけでありましてけれども、今、西尾と幸田と岡崎の一部で広域での焼却場をつくろうという話になっていて、具体的には令和12年度からの開始ということなので、10年ほど先の開始を目指して今、いろいろ話をしているというところで、具体的にどこに設置をしましょうということを2市1町で話し合いをしている中で、今のところ一番最有力な場所が、今のクリーンセンターの場所の敷地内につくるということでありまして。こちらについては、当然、近隣の町内の御理解も必要なわけでありまして、また適宜、報告をさせていただく中で最終的な決定ということをおこなっていただきたいと思うのですが、現段階ではクリーンセンターの敷地内につくるのが有力であるというところで御承知をいただきたいなと思います。

あと最後、大きな見出しの市民と行政が共に考え、行動するまちづくりというところで、3行目にコンビニ交付の利用促進とマイナンバーカードの普及、市役所窓口の混雑緩和を図るため、コンビニ交付における証明書発行手数料の値下げを実施というようにあります。マイナンバーカードについては、セキュリティの部分などで御心配をされる方もいらっしゃるって、その心配が絶対大丈夫だとまで言わないのですが、国もそういったセキュリティに気をつけている上で、マイナンバーカード普及促進を後押ししている状況であります。西尾市として、来年1月から実施予定なのですがけれども、市役所の窓口で住民票等の証明書を発行するよりもコンビニで手続きをやっていただいたほうが料金を下げます。確か50円ぐらいだったかと思うのですが、要は窓口よりも安くすることによって、マイナンバーカードを使ってコンビニで証明書を発行していただくとか、あとは窓口の混雑緩和ということで、そういったことの取り組みもやっていきたいというように思っていますので、マイナンバーカードをお持ちでない方は、マイナンバーカードの取得をお願いしたいのと、また、マイナンバーカードをお持ちの方については、そういった形で証明書を発行していただくと、わざわざ市役所まで行く手間も省けますので、御承知いただきたいなというように思います。

以上、走っての説明になりましたけれども、市政方針の説明については以上とさせていただきますので、また後ほどフリートークの場で、御意見とか御質問等があれば、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

### ○細田秘書広報広聴課長

ただいま、市長からお話がありました市政運営に関しまして、御質問等ある方は、後ほど設けます自由意見交換の時間で御発言いただくこととしまして、ここからは事前に御提出いただきました御意見や御質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

なお、この懇談会では、堅苦しくなく、活発に御意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存じの町内会長様に進行役をお願いしております。今回は、幡豆小校区の天野会長に進行をお願いいたします。

それでは、天野会長よろしくお願ひいたします。

### ○司会（天野会長）

皆さんこんばんは。幡豆小校区代表町内会長の天野でございます。

皆様におかれましては、日ごろから町内活動始め各分野でまちづくりに御尽力を賜り、本日は懇談会に参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日は市長初め、市役所幹部の皆様にご直接声を届けることができるよい機会があります。限られた時間ではありますが、幡豆地区さらには、西尾市を住みよいまちにしていくため、有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは、御指名を受けましたので、ここから私が司会を務めさせていただきます。進行に御協力をお願いいたします。

初めに、幡豆地区から事前にお伝えした意見や質問などに対して市から回答をいただきます。限られた時間で効果的に懇談会を進めるため、あらかじめ7件の意見等をお伝えしてあります。これらについて、御意見等は提出された町内会の方などに内容を読み

上げていただきます。

なお、市からの回答に対して、再度の御意見や質問がある場合は、すべての回答があった後、お聞きしますのでよろしく願いいたします。

それでは、1点目を東幡豆上畑組町内会長の大嶽様お願いいたします。

### ○上畑組町内会（大嶽会長）

皆さん、こんばんは。東幡豆校区上畑組町内会の大嶽です。よろしくお願いいたします。

人前で話したことがほとんどありませんので、パネルもちょっと作りましたので、それも含めて発表していきたいと思います。3分程度で終わりますので、よろしくお願いいたします。

まず、この写真をごらんになってください。幡豆町、東幡豆町の方でしたら、年配の方でしたらピンと来られると思いますけれども、これは昭和30年代、まだ僕が鼻っ垂れの頃ですけども、うさぎ島とか猿ヶ島に渡る船の写真です。場所は、ストーンカップが行われる東幡豆港です。写真を見ると、船の乗客は超満員で、明らかに定員オーバーです。さらに、乗り切れなかった方が棧橋でぎっしり待っておられます。この写真のように、東幡豆町は観光を中心とした非常ににぎわいのあるまちでした。

しかし、今は毎日、食べるものを売る店もなくなり、また、銀行もなくなり、そしてお医者さん、医院も1件あるだけの何も無いまちになってしまいました。つい最近ですけども、日用品を扱っていただく100円ショップも無くなってしまいました。

幡豆地区の食品店、銀行、そして医院の地図を自分でつくってみました。真ん中から右がいわゆる幡豆校区、左が僕のいる東幡豆校区です。幡豆校区には、赤丸で示した食品店が3件、ドラッグストア系のところなのですが、それでも食品は扱っていらっしやいます。緑色の銀行が3件、黒色の医療関係も医院が9件あります。しかし、真ん中から東の東幡豆校区には、このように医院が1件あるだけです。東幡豆の住民は、生活を維持するために隣の西幡豆やまた、蒲郡市へ車で行かなければならないのが現状です。車がない人、運転ができない高齢者の方、免許を返納した方には厳しいまちになってしまいました。今後、高齢化がますます進みます。交通弱者のため、また、生活維持のためのコミュニティバスの早期開通を強く望みます。

ただ、こんな要望ばかり言ってもだめなので、僕自身でちょっと路線を考えてみました。これがその路線図です。全くこれはまだ、自分で考えたので、不完全なものですが、幡豆地区は海と山に囲まれた細長い地域のため、バイパスと旧道を基本とした路線でかなり多くの方々がこのバスを利用できるのではないかなと考えました。まだしかし、本当にアバウトなものですから、もっともっと細かい集落の中も走らせたらいいなと思っています。

いろいろ発表させていただきましたが、市長は今年度の市政方針の中で選挙公約に基づいて、またぶれることなく発表されたことに、幡豆地区の公共交通協議会を支援し、幡豆の新たな公共交通を早い時期に実現しますと表明いただきました。大変、本当に期待しております。できましたら、具体的にもう少し市長のお考えとそれから、協議会の活動内容をお聞かせいただきたいと思います。

### ○中村市長

大嶽さん、具体的な御意見、御要望、御質問ありがとうございました。

隣の吉良地区におきましては、コミュニティバスは走っておりませんが、地区公共交通協議会を初めとする協議がまとまりまして、今年の3月からいこまいかーの目的地の拡大ということを実施している状況でございます。このいこまいかーとは何ぞやといいますと、必要なときにタクシー車両が自宅まで迎えに来てくれて、駅などあらかじめ決められた場所まで送ってくれる移動サービスであり、目的地の拡大は吉良地区において現在、大変良い評価をいただいているところでございます。そういった前提があるのですけれども、昨年度、幡豆地区においても住民代表や民生委員、代表町内会長、包括支援センターの方などで構成されます地区公共交通協議会が設立されまして、幡豆地区に適した移動サービスについて検討をしていただきました。



その中で、バスの場合、自宅からバス停までの移動ということがあり、それが大変な方もいらっしゃるということで、幡豆地区においてもバスではなく、いこまいかーで目的地の拡大を目指す事となりまして、駅のほか支所や商業施設、医療機関、金融機関などを目的地とする事となりました。現在、タクシー事業者と協議調整している段階でありまして、東幡豆の地域特性から蒲郡市への移動についても考慮しているところでございます。最終的には、市公共交通活性化協議会というところで、協議がまとまりましたら今年度中をめどにサービスの開始を目指しますので、申しわけありませんけど、もうしばらくお待ちをいただきたいというように考えています。

一方、この地区におきましては、西尾市として年間1億5,000万円を名鉄に支援しております名鉄西尾蒲郡線の沿線地区でございます。当地区の発展及び、次世代も住み続けるためにも、先ほど申し上げましたけれども、令和3年度以降も運行が継続できるよう皆さんと力を合わせてまいりたいというように考えていますので、こちらについても御協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

### ○上畑組町内会（大嶽会長）

ありがとうございます。

あくまでこれは、僕個人の意見として聞いていただければと思いますけれども、いこまいかーですか、すごく便利で新しいやり方としていいなと思います。金額的に吉良の例を考えますと、片道300円ですかね、往復になると600円と。例えば買い物に行くとしたら、10円、5円、1円を節約するお母さんですとか、それからお父さんの場合に例えば、ビールではなくて第3のビールですね、これで我慢している、僕もですけども、そういうお父さんにとって300円、600円払って買い物に行けるかどうか、その辺がまだ課題が残るのではないかなと思っています。よろしくお願いいたします。

以上です。

### ○司会（天野会長）

それでは、2件目、幡豆地区9番組加藤様お願いいたします。

### ○9番組町内会（加藤会長）

鳥羽町の9番組、加藤です。

2番組の竹林対策についてお尋ねしたいと思います。

私たちが小さいころ、若いころの山に比べますと、最近は孟宗竹、いわゆる竹林ですね、ものすごい勢いで増えていると思います。先日もテレビの土砂災害の映像を見ても、竹林が崩れている。上根だけしかありませんので、直根がないということで、そんなことでえらい勢いでこのあたりもふえていると思います。竹林がふえますと先ほど言いましたように、保水力も落ちてしまうということで、土砂災害の発生の要因にもなるのではないかなと思っています。これはもう新聞だとか、テレビが全国的な問題だと取り上げられていると思いますけれども、この西尾市でも同じようなことが言えると思います。

そこで、昨年5月の広報で募集があったと思うのですが、里山の竹林整備地がどうなっているのかをお聞かせ願いたいということと、それから、今年の2月に、森林所有者の意向調査が森林を持って見える方に配布されて、集約されていると思います。その中で、山林に占める竹林の割合が恐らく算出できると思いますので、その割合というのはどのようになったのか、それと、調査では把握できていない、例えば航空写真を使って実際に竹林がどれだけあるのかというようなことも把握された上で、何とか対策をしないと、もうこのままでは森林が、木が、針葉樹も広葉樹もすべてなくなってしまう。特に孟宗竹は、他の木よりも高く伸びますので、もう日陰になれば木は自然に消滅してしまうという事ですので、ほかの市町でそんなような対策、有効な対策を取っておられることを調査されるなりして、長期的な計画をつくっていただかないと、災害が増えたり、森林が消滅してしまうので、その辺のお考えを聞かせていただきたいなと思います。お願いします。

## ○中村市長

加藤さん、御質問ありがとうございます。

現在、森林に関する計画につきましては、森林法に基づき平成27年度に策定した西尾市森林整備計画というものがございますけれども、森林被害に対応するための計画というものは策定していない状況でございます。昨年、公募により実施いたしました里山の竹林整備につきましては、県の補助事業でありますあいち森と緑づくり事業を活用いたしまして、上羽角町と八ツ面町の雑木林約1.6ヘクタールにおいて、竹の伐採整備を行い、所有者の方が管理しやすい山林となっております。また、2月に実施しました森林所有者意向等調査につきましては、回収率は約68パーセントという状況でございます。その中で山林に占める竹林の割合は、約14パーセントでありました。

また、竹林の実態把握のための航空写真の撮影についてでございますが、こちらについては行ってはいないのですが、西尾市の森林の状況を把握するため、今後、飛行機からレーザーを発して行う測量によりまして、地形や樹木の種類を判別し、実態の把握をしていく予定でありますので、よろしく願いいたします。

## ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

次に3件目を東幡豆校区彦田組町内会長の小林様お願いいたします。

## ○彦田組町内会（小林会長）

東幡豆小校区彦田組町内会長の小林と申します。よろしく願いします。

ため池の災害対策について、お聞きしたいと思います。

近年どこの地区でも大規模地震やそれに伴う津波、突然の集中豪雨、洪水などがいつ起きても不思議ではないと思われております。各町内会や自主防災会でも意識をそれぞれ高められていると思いますが、災害対策の中でため池の耐震補強についてお伺いしたいと思います。

自分の地区の彦田池、具体的に言いまして彦田池では、耐震強度が足りずに一度は、今年度より耐震補強工事を開始すると市のほうから言われておりました。文書も確かあったと思うのですが、残念ながら現時点では着工もされておらず、予定もない、聞いておりません。

彦田池の下流には、民家ですね、自分のところの町内会の民家、避難所となる東幡豆小学校や体育館、先ほど言われました東幡豆地区唯一の医院、病院があります。池に被害が出た場合、町内会の住民も大変心配しております。ほかの地区のため池も含めて、どのように耐震工事を進めていくのかを教えてくださいたいと思います。よろしく願いします。

## ○中村市長

小林さん、御質問ありがとうございます。

現在、西尾市内におきまして、ため池が74カ所ございまして、このうち決壊や崩壊時の浸水域に家屋や公共施設などがあり、人的被害を与える恐れのあるため池を防災重点ため池に指定をいたしまして、優先的に安全対策を進める事としております。この防災重点ため池の指定は29カ所ございまして、このうち対策を要するため池は17カ所であり、耐震工事などの対策を順次進めている状況でございます。

御質問の彦田池につきましては、御指摘のとおり耐震診断の結果、耐震性が不足し対策が必要なため池となっておりますので、現在は愛知県におきまして効果的な耐震工法の設計が進められている状況であります。令和2年度に事業着手し、令和4年度には対策工事が完了する予定と聞いておりますので、よろしく願いいたします。

## ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

次に、4件目を幡豆小校区9番組深谷様お願いいたします。

### ○9番組町内会（深谷様）

こんばんは。鳥羽の深谷といたします。

私からは、通学路の安全確保に対しての提案でございます。

最近、通学途中での事故や犯罪、子どもたちが巻き込まれることがよく報道等で耳にします。それらを未然に防ぐには、日ごろの対策がぜひ必要だと考えております。地域住民の見守りボランティア等もその一環だと思います。行政、学校、地域、官民連携の強化が最も大切だと考えております。

そこで、防災マップのような通学路マップを作成し、危険な箇所等、問題点を共有し、そういった危険な場所があった場合は、特に見守りボランティア、その他、見守る人が重点的に注意をしたり、また、必要とあれば防犯カメラ等の設置に役立てることはできませんでしょうか。

このようなことから、市としてどういうお考えかお聞かせ願います。

### ○稲垣教育長

教育長の稲垣でございます。深谷様、御提案ありがとうございます。

子どもたちの安全を確保する事は、とりわけ大切なことと考えております。現在、市内の小中学校のうち、まず全ての小学校におきまして、スクールガード等の見守りボランティアが組織されておりまして、日ごろは保護者や教職員とともに登下校時の安全に御協力をいただいている状況でございます。

防災マップのような通学路マップにつきましては、現在、半数以上の学校で作成をしております。また一部の学校では、校区の町内会やあるいは見守りボランティアの方たちにも配付いたしまして、危険箇所等について共有をしているところもございます。

また、各校区には、警察署の委嘱を受けましたこども110番の家を設置してもおります。こうした地域の皆様と連携協力した通学路の危険箇所特に注意した安全確保の取り組みを引き続き行ってまいりたいと考えております。なお、防災マップのように危険箇所を明確にして、地域全体に周知していく取り組みは、大人による見守り活動やあるいは御指摘のように防犯カメラの設置にも大変役立つものと考えておりますので御承知おきください。

以上でございます。

### ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

次に5件目を東幡豆小校区中柴組町内会長の尾崎様よろしくようお願いいたします。

### ○中柴組町内会（尾崎様）

自分の一番下の息子は、安城特別支援学校の卒業生で、自分も何度か足を運びました。そういう中で、安城特別支援学校が一時期、全国で1、2を争うマンモス学校だというようなことをちょうど同じ学校に同級生がおりましたので、聞いて、美合に新しく1校、特別支援ができて、少し緩和したということですが、まだ非常に窮屈であるというか、先生方が非常に苦勞されていると、子どもたちも十分な指導が受けられないというような状況があると思います。そういう中で、西尾市では、特別支援学校を作られるという予定があるということで、少し具体的にお話をさせていただきたいなど、完成とどういう障害のある方を受け入れて、どの範囲から生徒さんをとというようなことを考えておられるのか、教えていただけたらありがたいなと思います。

また、そういうような障害がある子どもを持つ親として一番心配なのは、自分らが死んだ後にその子どもがどう生活していくかというところで、障害者年金だとか、なんとか年金だというようなことで、助けてはいただけるわけですが、今、自分の息子も正直言って年金をいただいています。ですが、それでは十分ではない。一番最初に働いたところは、友国作業所というところにしか、行かせてもらえなかったという言い方は失礼

かもわからないですけど、行きました。

そうすると、ひと月大体1万円ぐらいです。20日ぐらい働くかな、時給100円です。いろいろなところで聞いてみると、100円いけばいいよ。時給90円、85円という話も聞きます。これではどうして生活できないです。ですので、こういう子どもたちが働いて食べていける、生活していけるような支援を考えていただきたいなあ、どうのように考えておられるかなということ、今、自分の息子、長くなって申しわけないですけど、一般企業に働かせていただいております。特別支援の子たちだけが働いていますので、当然収入は少ないです。それでも、年金とそこからいただけてくるお金で、ひと月20万円近くなるかな、となると生活していけるというようなことで、そういうように望んでおられる方が障害を持った親御さんには、いっぱいおられると思いますので、西尾市としてはどうのように考えておられるか教えていただきたいのと、もう1つはその後、今度は自分らが死んでしまった後、老後ですね、今、老々介護とか何とかいろいろ出てきていますが、年をとられたそういう障害者に対して、どのような支援をしていく計画があるのか、教えていただけたらありがたいなと思っております。

### ○稲垣教育長

尾崎さん、質問ありがとうございます。

初めに、私のほうから、西尾市に開校予定の特別支援学校についてお答えをさせていただきます。現在、憩いの農園の北側の須脇町地内において、建設が進められております特別支援学校でございますが、愛知県が事業主体となり県立学校として整備を行い、管理そして運営するものでございます。

この新設校の概要であります。県によりますと県下で初めての知的障害と肢体不自由の両方に対応する学校でありまして、小学校部と中学校部と及び高等学校部を備えまして、児童生徒数は240人程度の規模というように想定を現在されております。

通学区域であります。西尾市、碧南市、及び安城市が予定をされております。今年度から建設地の造成工事に入りまして、令和4年の4月の開校に向けて準備が進められておりますが、長年、熱望されていた特別支援学校でありますので、西尾市教育委員会といたしましても少しでも良い学校にするためにできる限り県の事業に参画をしていきたいと、このように考えております。

### ○中村市長

就労支援につきましては、僕のほうからお答えさせていただきます。

文面上、尾崎さんがただいまお進めいただいたところがこちらで読み取れなかったもので、まずは用意させていただいた回答をさせていただいて、不十分な部分はお手数ですけど、また後程、再質問という形であればというように思います。

障害者の就労支援でございますが、福祉課では一般就労に向けた訓練を行う就労移行支援、一般就労が困難な方に働く場を提供するとともに、着替え、食事等自分の身の回りのことを自分でできる訓練を行う就労継続支援等の障害福祉サービスの支給決定を行っております。

また、ハローワークと合同で、障害者の方を対象とした就職面接会を年1回行っている状況にあります。今後もハローワーク、相談支援事業所及び障害福祉サービス提供事業所などと連携をして、障害者の就労支援に向けた施策を検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

次に6件目を幡豆小校区4番組町内会長の鈴木様お願いいたします。

### ○4番組町内会（鈴木会長）

幡豆小校区4番組町内会長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。

今まで、市長の市政方針だとか、要望、質問等で結構多くの事がいろいろなことがあ

るのですけれども、今までのことはほとんど幡豆、西尾も含めてそうなのですけれども、幡豆の土地とか人口減少その辺に全ての原因があるような感じがします。

私が住んでいる4番組というのは、西幡豆が幡豆小校区のほうで一番目に要望された東幡豆小区に比べれば、まず、店とかそういったものが多いので恵まれているのですけれども、それでも痛切に感じるものが、これは私の個人的な感覚かもしれませんが、東日本大震災以降、特に海が近く、津波が来ると危ないというような、よくマスコミの方もあるわけなのですけれども、そういったことの風評が結構大きいような感じがして、地価の価格が急激に低下しているように感じられます。このために地下、少子化によって人口減少に拍車がかかっているのかなというような感覚を持っております。特に最近、空き家とか売り地等の看板が立っても、それがそのままいつまでもあるというような感覚をすごく強く持っています。

ですけど、この幡豆地区というのは、申し訳ないですけど、一色とか吉良に比べれば標高が高くて、三河地震のときにも余り大きな被害がなかったという、地盤は強固であるのかなと勝手に思っていますけども。こうした地震や津波に対して強いということでも、逆に海が近いことで温暖で暮らしやすい気候であるということは思っております。

このようなメリットをアピールして、デベロッパー、土地開発に対して積極的に、特に、市長、個人的にでも働きを、それこそ名鉄等も開発に巻き込んでいただいて、この辺も今までの計画にとらわれることなく、やっていただきたいというような要望をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

## ○中村市長

鈴木さん、御提案、御要望ありがとうございます。

移住、定住を促進するため、市の魅力や住む町としてのイメージを発信するシティプロモーション冊子にしおじかんを作成したり、ホームページの開設やフェイスブックなどのSNSを活用して、市内外に向けた情報発信力の強化に現在、努めているところであります。冊子については、市内外の不動産業者やハウジングセンターでのイベントなどで、子育て世代を中心に広く配布をしております。冊子にしおじかんは、西尾で生活する移住者の生の声を掲載し、温暖な気候で住みやすい場所である幡豆地区の魅力も紹介をしております。こういう冊子でありまして、これを不動産会社などに置いている訳でありまして、我々行政が良いと言ってもなかなか説得力がないので、具体的に西尾に移住された方の特集というか、インタビュー形式みたいな形で西尾のよさをPRしてもらっている状況であって、幡豆地区に来られた方も二人、4ページ分掲載している状況でありますので、御承知をいただきたいなというように思います。

あと、デベロッパーによる宅地開発については、需要と供給の中で民間事業者により行われるものであり、必ずしも市の思いや方向性が実現されるものではないのですけれども、個人的にそういった仕事の方とかとお会いする機会があれば、もちろん僕自身も幡豆地区の開発というか、盛り上げに向かって何か協力をお願いしますということは、PRしていきたいなというように思います。

あと、開発だけでなく、空き家への移住支援についても対策が必要であるという認識を市としては持っております。優良な物件の情報を提供する空き家バンクの開設についても現在、検討がなされている状況でございます。現在、幡豆地区の自然の豊かさと住環境の調和に魅かれ、市街から移住した若者たちが幡豆地区を盛り上げようとさまざまな活動を行っています。いわゆるハズフォルニアというところの活動でありまして、豊かな自然環境に恵まれた幡豆地区の魅力については、市として十分、認識をしているところでもあります。地元ずっと代々住んでいるからこそ逆に気づかないところもあると思いますので、そういう特に幡豆地区の魅力に魅かれて移住して来たそういう若者たちの民間の運動とか活動というものは、市としても積極的にバックアップをさせていただきたいなというように思っておりますので、よろしく願いいたします。

## ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

最後に、7件目を幡豆小校区7番組町内会長の鈴木様お願いいたします。

### ○7番組町内会（鈴木会長）

西幡豆校区の7番組鈴木と申します。よろしく申し上げます。

ここ10年ぐらい前、企業庁がセントレア、名古屋空港を作るということで、土取りをやるという計画をして、企業庁が幾らかかったのかわからないけど、7番組地域の山の1帯を買収してやるというのが途中で変わって、企業庁の山林がそのまま残っていると。今、そういう状況で、台風が来たり、いろいろなことがあって、木だとか竹だとか道路に散乱しているような状況です。7番組のボランティアだとか、いろいろな人たちが道路を車が通れるように、日々片づけたりいろいろなことをしているのだけれど、企業庁は全く何もしていないと、もう、見ても全く手を入れてない、そういう状況の中です。もう市としては、企業庁に今後どのようなアピールをするのか、今後どのような計画を何かしているかどうか、西尾市として企業庁に要望しているか、申し上げます。

### ○中村市長

鈴木様、御質問ありがとうございます。

また、長年いろいろと御心配をおかけいたしまして、申しわけありません。

まず、愛知県企業庁が管理している山につきまして、倒木やがけ崩れなど、車の交通に支障をきたしている場合がございますら、市を通じて管理者であります企業庁へ連絡し、対応をお願いしてまいりますので、企業誘致課までその都度、御連絡をいただければというように思います。

また、土地の利用方法につきましては、今までに企業庁へ砕石場跡地を利用した工業系の開発計画や県営の公園設置などの検討をお願いしてまいりましたが、法規制ですとか事業の採算性などの面から困難との回答を受けている状況でございます。

このように地区全体の利用方法となりますと、なかなか見つからない状況で現在まで来ているというのが正直なところでありまして、そういった状況でありますので、市としては現在、まずは一部でも利活用できないかということで、再度、採石場跡地における工業系の開発を強く要望しているところであります。

また、地区全体の利用方法についても、企業庁と市の間で定期的に勉強会を開催しておりまして、その勉強会を通して幅広く検討しているところでありますので、よろしくお願いいたします。

### ○司会（天野会長）

ありがとうございました。

私どもから事前にお伝えしたすべての意見や質問などに対しまして、ただいま回答がありました。ここで、これまでの意見や質問の回答に関する御質問等をお受けする時間といたします。

なお、自由意見などについては、後ほどお時間を設けますので、そちらでの御発言をお願いし、ここでは地区取りまとめの事前質問や市からの回答に関する質問に限らせていただきます。

御発言にあたっては、挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってから御発言ください。なお、限られた時間でありまして、趣旨を簡潔にまとめ御発言いただきますよう御協力をお願いします。

それでは、御発言のある方、はい、どうぞ。

### ○洲崎組町内会（フジノ様）

洲崎組におります、フジノと申します。初めまして、よろしく申し上げます。

私は移住者でございまして、10年前にこちらに移住しました。今、西尾市のスマート自治体推進アドバイザーという6月からデジタル化などのアドバイザーを務めさせていただく形になっているのですが、5つあります。

一つ目、非常にこのすばらしい発表で、わかりやすい御説明であったこともあって、

これは映像配信ということをお調べいただけないかなということが1つ目です。

二つ目、医療の事なのですが、今、日本の中では同じように医療の医師がいない問題というのがそこらじゅうの地方自治体にあるのですけれども、医療アプリというのがあって、個人が簡単な医療相談をスマホ上で医師に直接できるというアプリがあります。これは、茨城県つくば市が先行的に活用しておりますけれども、これを使うことによって簡単な相談をスマホ上でなされることによって、西尾市民病院の負荷が下がるということ、医師の負荷が下がるということによって、結果、医師の働きやすさが向上されることによって、リクルートしやすくなるということがあると思いますので、御検討いただけたらいかがでしょうか。

**○中村市長**

ちょっとだけ済みません。

今ですね、事前にいただいた回答したテーマについて質問をいただいています、フリートークはまた、後で時間を。

**○洲崎組町内会（フジノ様）**

これフリートークじゃないです。今、御質問いただいたことについての質問でという意図でしゃべっていたのですが、

**○中村市長**

回答いただいたことについての質問というのは。

**○洲崎組町内会（フジノ様）**

違ったのですね。失礼しました。後ほどにします。失礼しました。

**○司会（天野会長）**

先ほど7問、質問しました意見について、何か御質問、御意見等ある方、挙手お願いいたします。

**○洲崎組町内会（フジノ様）**

いこまいかーの件ですけれども、私も東幡豆に住んでいて、その必要性は感じております。コミュニティバスもあったほうがいいという御意見もすこいよくわかるのですけれども、今、1つの事例で申し上げますと、京都の京丹後市というところで、非常にこれも過疎地が進んでいるところですが、ささえ合い交通というのがありまして、これはNPO法人が市ではなく、NPO法人が運営しているもので、市内に住んでいる一般のドライバーの方、タクシー業者ではなく一般の方が運転者になって、その方、市民が京丹後市の市民が運転者でその方が移動したい人を運ぶという日本の中で初めての取り組みがなされています。これはスマホで申し込めたり、スマホで申し込む事をできない方に人が支援したりということで、2016年から開始をされています。1台当り、初乗りが1.5キロメートル480円ということなのです。これはちゃんとお金の負担があるのです。先ほど300円という話でしたが、1人300円ということなのですけれども、それが特別に高いかという、世の中の的にはそんなことはないというように思っていて、それを人々が活用できる方法というのが今、事前の電話しかないということがあるものですから、ここのやり方を変えることによって、もう少し変わってくるかもしれませんし、もう1つ考えなくてはいけないのは、こういうのを全部市が抱えるというのは、やはり世の中の的になかなか難しいということもあって、いかに一般の方が、タクシー業者だけでなく一般のドライバーがするということもあるのではないかとこのように思いました。

以上です。ありがとうございました。

**○司会（天野会長）**

ありがとうございます。

では、市側の回答をよろしくお願いたします。

### ○山崎市民部長

こんばんは。市民部長の山崎と申します。

フジノ様、研修のときにも聞かせていただきましたが、今日わざわざ新しい事例を御紹介いただきましてありがとうございます。

先ほど、金額の面も大変に負担だという町内会長様のお話もございましたが、まさにドアtoドアといいまして、本当に玄関前までこのいこまいかーというのは、迎えにきてくれます。それは、公共交通機関のあるところまで行くということで、300円のとらえ方というのは、今、フジノ様もおっしゃられた捉え方なのかなと1つは思うところがございます。

また、今、NPOの事例につきましても、ちょっと私どもも勉強不足で、いろいろな新聞なども見てはおりますので、申し込みの仕方だとか、今いろいろなアプリが開発されてきて、また、個人で登録するドライバーの方とか、いろいろあるようでございますので、その辺も私ども研究はしてまいりたいというように思っておりますが、ちょっと手前味噌かもしれませんが、この幡豆地区で皆さんもまだ、一部の方で協議をさせていただいておりますので、その経緯を少し申し上げますと、現在、幡豆地区の公共交通協議会には、ふるさと協議会の方、民生児童委員の方、代表の方ですね、それとあと、幡豆福祉会友国作業所の方、あとNPOのやらまいか、人まちサポート、それと福祉の地域包括支援センターの吉良、幡豆の方、それに東幡豆、幡豆小校区の両地区の代表町内会長様に御参加いただきまして、このメンバー選定もそうですが、準備会に5回ほど、どういったメンバーで話し合うかというのをこれまで話し合ってきました。

それで、昨年12月にアンケートも幡豆地区の方々、皆さんが主体的に取り組んでいただきまして、500名の方から、例えば、自動車を運転するか、しなくなったらどうするのかという、いろいろな問いを書きまして、こういったところから現在のいこまいかーのほうが見方としてはいいのではないかと、バスとかいろいろな話もございましたが、この地区で今、検討されたのは基本的には、西尾のバスを再編をしているのもそうですが、バスを1つ引くということは、例えば名鉄と今、先ほど市長も申し上げましたが、この地区の地域振興にとっても、今の通勤通学でも核であります西蒲線との競合という、こういったことも公共交通1本考えるのに、考えていくということになりますと、そういったところから賢明な御選択をさせていただいたというように思っております。さらにそれをいこまいかーで駅だけではなく、今、吉良でも大変人気をいただいておりますけれども、生活に合った買い物、医療、そういったものに行けるような目的地の拡大ということを実施しておりますことを少し御紹介をさせていただきまして、フジノ様の御提案に関しましては、また、今日、私どもの担当課長もまいっておりますので、研究をしていきたいと思っております。

よろしくお願いたします。

### ○司会（天野会長）

ありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

では、予定時刻よりも少し早いですが、自由意見交換の時間として進めてまいります。お時間は、8時15分までとさせていただきます。皆様には、先ほどの地区の取りまとめの意見や質問などにかかわらず、まちづくりに対する提案や意見、そのほか地域の困りごと、関心事などがございましたら御発言いただきたいと思います。

また、市長から話のありました市政運営に関する質問などがございましたら御発言お願いたします。先ほどと同じように、御発言にあたっては、挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってください。

なお、より多くの方に御発言いただけるよう、要旨を簡潔にまとめ御発言いただきますよう御協力をお願いたします。

それでは、御発言のある方は挙手をお願いたします。

はい、どうぞ。



### ○1 番組町内会（原田副会長）

幡豆の町内のことではないのですが、私、元吉良高のPTAの役をやっていたのですが、最近、吉良高と白浜小学校、白浜保育園との合同で避難訓練をやっているのですが、ことしも11月5日にやるそうなのですが、そのときに白浜小学校には無線の中継器が設置されているのですが、せっかくそういうものがあるなら、吉良高とか白浜小学校にもそういう設備をして、吉良高の生徒が避難するときに保育園児とか、小学校の低学年児と一緒に連れて逃げると、避難するという点に関して、無線があればより早くそちらの状況等各形で、お知らせができるのではないかとということで、私よりも先輩のPTAの役員さんで現市議会議員さんから市役所のほうにちょっと聞いたら、吉良高は県のものだから、県のほうで何とかしてもらおうようにしてくれと言われたのですが、確かに県ですけれど、自助共助という形でやると、吉良高生に助けてもらえば、保育園児がよりたくさん助かるのではないかなとということで、その点は例えば、逆に自助共助の教育費だと思えば、無線機を渡してもいいのではないかなと、そう思うのですがいかがでしょうか市長さん。

### ○司会（天野会長）

では、市側、回答をお願いいたします。

### ○宮地危機管理局長

危機管理局長をしております宮地と申します。よろしくお願ひいたします。

今、おっしゃっていただいた話を私もお聞かせいただきまして、白浜小学校に無線の局がありまして、あとトランシーバーの局も設置がしてある状況になっています。局とトランシーバーを地域の自治防災会の方と学校という形で、2台配置をさせていただいております。今回、自主防災会も含めた吉良高とあと白浜小学校、あと保育園の訓練のときに一度トランシーバーを使っていたいて、そういうお申し出でありましたので、それを貸し出しを1回して、使ってみて非常に有益であるならば自主防災会さんのほうで今度補助を使ってそういうのを買っていただくことができますので、そういうような形でどうですかというお話を今年させていただいております。一度やってみてそれが有益に使えるのかどうか、そういうのも含めて御検討いただけたらという話をさせていただいたところでございますので、また、お話ありましたら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

### ○1 番組町内会（原田副会長）

たまたま今年赴任された校長先生が、半田出身で、半田のお祭りに無線機が大変都合がいいということに身染みしているようなので、それでどうですかという形で提案を。

### ○宮地危機管理局長

そういうような形でさせていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。

### ○司会（天野会長）

ありがとうございます。

それでは、そのほか御意見ございますでしょうか。よろしいですか。

質問、御意見がないようですので、これで自由意見交換を終わります。

少しお時間がありますので、市から何かお知らせはありますでしょうか。

### ○洲崎組町内会（フジノ様）

先ほど話してきたので、あれなんです。多分、もう少しあるんじゃないかと思っております。今、どうなんですかね、わかりませんが。

竹林のことについて、先ほどとも関連するのですが、竹林のことについては、私も今日、済みません、こんな格好で来て申しわけないのですが、ハズフォルニアとい

う活動をやらせていただいております、その中で竹林どうにかするということは、私たち民間からも話が出ております。

今、愛知こどもの国には、竹林をパウダーにして、道に敷くことで道が柔らかくなって歩きやすくなる散歩道みたいなのができ始めていて、そういう活動は今、だれによってなされているかという、愛知こどもの国をやっている西尾フロンティアの人たちとそこに協力するボランティアの方々の労力によって成り立っています。

私はここから感じることは、竹林の整備というのは非常に危険を伴うことですし、危ないことではあるのですが、体の動く若者や50代の方を中心にボランティアの方が竹林のパウダーにする機械は、こどもの国に貸し出せる大きなものがあるということなので、1人ではとてもできることではなく、軽トラで運ぶ必要があるのですが、そういうことをしながら竹林の整備を自治体に任せるだけではなくて、みんなが自分でやれるそういうイベントということをするということのも必要ではないかと、竹林のパウダーは使い道はいくらでもあったりするので、そういうことをまた私たちハズフォルニアのメンバーでも企画をしていきたいと思っておりますが、そういうのを例えば、市の広報などに出させていただくことで、ボランティアの方が参加して若者が勝手にやってるんだろうではなくて、年代関係なくそういう活動ができるということができはしないだろうかということが、先ほどの話を聞いて感じました。

最後に空き家バンクですけれども、移住者は確かにすごい問い合わせがありまして、私たちがこうやっている活動をしていますと、寺部海岸にことし本格的にオープンしましたが、海の家がオープンしておりますが、そこに来たお客さんとかがこの辺に住むところはいいのかということ非常に問い合わせが多くあります。正直、空き家については、中に荷物があるということがあって、なかなか出せないんだということが、空き家が実際にあったとしても、動かせないという現状があるというように私は思っています。私の住んでいる所の洲崎あたりも本当にそういうのが多いのですけれども、どうやってそういう、昔から先祖代々受け継いでいるものというものを人に貸すとか、人に明け渡すということについて、心理的抵抗があるということは非常に僕は当たり前のことだと思うのです。使わなくなったから、だれも住まないと思うからどうぞという空き家というのは、残念ながら新しく住む人にとっても魅力的な物ではないということもあって、本来空き家として出てくる物件というのは、よかったら大事に使ってくれる人に使ってもらいたいというものであるべきではないかなと思っていて、そういう物件が出てくるということがどうやったらいいのかというのが非常にわかりません。これは、僕も皆さんも知恵が欲しいですし、空き家について今、インターネット上で全国の空き家の物件ということを集めて、それを発信するというサービスがあります。100円物件というのと100万円物件という2つの価格で出されています。

100円物件というのは、もう引き取り手がいるのだったらただでも譲りたい、固定資産税を払うのが大変だというような物件をそこに集めているという活動です。

100万円物件は、ある程度これは住めるはずだから、ちゃんとしたお金で引き取ってほしいというのがあります。こういうインターネットの活動みたいなことというのをこれから日本全国、いろいろな自治体がやっているのですが、いかんせんこれは、空き家の実際の持ち主である高齢者の方に届かない。この問題を解決するということがそれぞれの組が広報などで出す回覧板だとか、もしくは一番大事なのは口コミでして、このように西尾市が例えば空き家バンクということのをこれからやるときに、それをどうやって、地元の組の口コミの話の中で広げていくかということが大事なのではないかなというように思っています、インターネットとかわからんではなくて、それを口コミの世界へどうやってつなげていくかということがこれから必要だと感じました。長話、失礼しました。

## ○司会（天野会長）

ありがとうございました。市側、よろしく申し上げます。

## ○加藤産業部長

御意見ありがとうございます。産業部長の加藤でございます。まず、竹林整備について、回答させていただきたいと思っております。

先ほど、竹林を使ってパウダー状にして何か利用していただいているということで、これについて広報等で宣伝、PRしていただけないかということでございますが、これにつきましては、農林水産課のほうで竹林の整備を実施しておりますので、御相談いただければ何とかできるようにしていきたいと思っております。

それと、先ほど市長からも説明のありました、竹林の整備事業につきましては、今までは県の単独事業による100%補助で吉良、幡豆、西尾の山の竹林を伐採して、それをチップ化して、散策路に撒いたりというような事業を行ってまいりましたが、この事業が終了しまして、今後、森林環境譲与税というのが始まりまして、この財源を利用して新たな活動ができるようになりますので、これにつきましてもまた、御相談いただければ何か検討していきたいと思っておりますので、相談をしていただければ結構かと思っておりますのでよろしく申し上げます。

#### ○司会（天野会長）

ありがとうございます。

私から代表町内会長として、できたら町内会長さんたちがこの席では、ほとんど見えていますので、町内会長の会議にかけましてできるだけ協力させてもらいたいと思っておりますので、前向きに検討したいと思っております。

はい、意見どうぞ。

#### ○山崎市民部長

フジノ様ありがとうございます。

本当に今、空き家の状況をよく知り尽くしておられますので、私ども大変参考となる御意見いただきました。

現在、私どものほうで、市長が先ほど申し上げましたのは、愛知県で全国組織ももちろんございますが、愛知県の中で宅地建物取引業界の出資で、県の宅建サポート協会という愛知県の中で全て賄える機構が1つできまして、そこに西尾市の場合は、岡崎支部という西三河の支部がございまして、そこに西尾市は属しております。その役員様のほうからでも、ちょっとお声かけがございまして、ようやく協定をさせていただきながら、それでいろいろな情報サービスをするということでございますが、これはあくまでも1つのつなぐ方法の糸口として考えているわけでございますが、先ほど一番空き家で大事なものは、フジノ様がおっしゃられたとおり、ロコミもそうですし私どもも2年前にこの特別措置法といいますけれども、空き家対策を行うにあたって、実施方針を組みましたのですが、このような亡くなったり、移転をされたりする方は、またその空き家の管理に困るということで、そういう方にこういったパンフレットをお渡ししながら、さきほどおっしゃられたロコミではございませんが、その持ち主の方に意識づけをするということは、本当にまだまだ始めたばかりでございますけど、こうした地道な活動もやっていることをちょっと申し上げておきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

#### ○司会（天野会長）

ありがとうございます。

#### ○近藤総合政策部長

総合政策部長の近藤でございます。

フジノ様には、スマート自治体推進アドバイザーとしていつも富んだアイデア等ありがとうございます。

先ほどの御質問に戻らせていただくのですが、本日のこの市政懇談会の映像を配信できないかというような御提案をいただきました。現在は、議事録をあとで公開するというような形を取っておりますけれども、今、御提案をいただきましたが、限られ

た職員の中で対応しておりますので、映像のスタッフですとか、資機材等の問題もございますので、前向きに検討はいたしますので、どうかよろしく願いいたします。

○司会（天野会長）

どうもありがとうございました。どうぞ。

○西尾市民病院事務部次長

市民病院の事務部の次長をしております西尾といいます。よろしく願いします。

先ほど御意見いただきました医師不足に対応するアプリということで、アプリを通して医療相談等をやることによって、医師の負担軽減になるのではないかとというような御意見をいただきました。実際に医師は、慢性的に不足をしております、朝早くから病棟回診、それから午前中は診察、午後は手術などでずっと勤務しております、その負担軽減というのは本当に大切なところだと思っております。そのため、皆様には、かかりつけ医を持っていただいて、少しでも救急のほうにかかる件数を少なくしていただきたいことを機会あるごとをお願いしている状況ではございますけども、先ほどお話しいただきましたアプリ等を実際に今、うちの病院で導入できるかどうかというのは、ちょっとわかりませんが、ただ、そういった負担軽減策ということで、一度持ち帰って検討してみたいなと思っておりますので、よろしく願いします。

○洲崎組町内会（フジノ様）

私が先ほど、タイミングが悪いところで質問してしまったので、話が尻切れトンボになってしまったのですが、アプリについては、そのアプリで相談して答えるのは、西尾市民病院の医者ではないのです。そうではなくて、全国で医師が余っているところの病院の医師が答えるんですよ。だから、余っているところは余っているのです。そういう所の病院の医師が答えるということによって、過不足の差分をなくそうというのがこの取り組みなのです。

ですから、市民病院がそれに対して対応しなければいけないということではないのです。これは相談するとき、今のところ世の中で行われているのは、その会社が初め1年間、利用料を負担して実際にトライアルしてみてくださいということがありまして、そのあとは相談費用というのを市民がみずから1回あたりいくら、1か月当たり300円ということを払って使っていくというケース、もう1つは、市民がみずから負担するのではなくて、市側がある程度の利用人数ということを見込んで、市の予算として計上しているケースの2つが利用事例としてはあります。いずれにせよ、そこに対して完全無料でできることではありませんで、予算化が必要になってくるのですが、今行われているケースでいうと、1年間トライアルを無料でやってみて、どれぐらい使われたのか。実際にこれを使う方というのは、高齢者の方ではなく、子育て中のお母さんとかが自分の子どもがひきつけになったときに、ひきつけで救急車を呼んでしまうわけです。ひきつけだと確かに怖いのですけれども、ほかにじんましんが出たとか、そういう簡単なことなのだけど、ちょっと不安なんだというときに相談できるものというのがあって、かかりつけ医に相談する手前の所を相談するというものらしいです。ですから、何が言いたかったかということ、スマホを使うのは高齢者ではなくて、若手の方であるということで、そこにどれぐらいの使用率があるのかということを見込んで、来年度以降そういうことを検討してはいかがかなという意見でした。

失礼しました。

○司会（天野会長）

ありがとうございます。御質問、その他、はい、どうぞ。

○吉良町（フカヤ様）

今は吉良町のフカヤです。前は鳥羽町でございました。元町会議員です。

先ほど、7番組の町内会長が言われました、企業庁の土地ですね、150ヘクタール。この間、隣の町で50ヘクタール、ある企業が進出してくるというようで、大変旧幡豆町の方は、心を痛めているのではないかな、私自身も合併して8年、移って15年になりますかね。今、第2滑走路という話がございますが、今、市長はいろいろ動いていると言われましたけども、1つだけ、保安林解除とは、全部解除になっているのですか。

それと、あと道路関係、今、鳥羽のほうからいくと、もうすごい友国のところが混んでいまして、これであと5年後に大きな企業が、企業名を言ってもいいのかな、デンソーだといって、かなり混むのではないかなと思っております。2点目ですね。

3点目が市長が就任して、2年が経過いたします。ここに進捗率として誰がやったのか知らんけど、何%となっておりますが、2年前も言いましたけど副市長さんが今、1人しか見えない。今後もあと2年間もこのまま副市長さん1名で市長さんと2人でこうやっていかれるのか、その回答もいただきたい。

それと、私の1つ先輩の稲垣教育長にも一言。ここは、幡豆町でございますので、私は地元のことって、PRでもちょっとしていただきたいかなと、簡単でございますがそのぐらいでちょっとやめておきますので、よろしく願いいたします。

### ○司会（天野会長）

はい、御回答よろしく願いいたします。

### ○打田産業部参事

産業部参事の打田と申します。

私のほうで、一番目の保安林の話と、2番目の道路の渋滞の話のほうを回答させていただきます。1つ目の企業庁の山の保安林ですけれども、まだこれについては解除をされておりません。保安林としては、全体が150ヘクタールある中で、26ヘクタールが点在した形で保安林という形で残っているという状況でございます。

2つ目の駸馬地区のほうで、デンソーの新工場ができるということで、開発のほうをこれも県の事業として進めております。市としましても、県と一緒に道路の渋滞の対策の緩和を考えるということで、来年度から調査して対応策を検討していくということを考えております。

私のほうからは、この2点お答えをしました。

### ○中村市長

フカヤさん、御質問ありがとうございます。

確かに西尾市においては、副市長の定員2人になってはいますけれども、2人置くことが目的ではありませんので、2人ありきでも考えてないし、2人目を置かないというありきでもないということでありまして、人材としていい方がいるかどうかとか、そういう状況を含めて考えたいというように思っておりますので、よろしく願いいたします。

### ○司会（天野会長）

はい、よろしく願いいたします。

### ○稲垣教育長

深谷様、PRの機会をいただきありがとうございます。

本日も私、ここまで家から歩いてまいりました。本当に地元でございます。

何をお話していいか、実はわからないですけれども、ただ私は、幡豆というところをすごく愛していますということは言えると思います。小野ヶ谷川、そして八幡川で私は小さいころ、魚ばかり取って遊び、そして実は、今だから言えますが、石割場、採石場に潜り込んで水晶を探し、東幡豆のトンボロ干潟を歩き、先ほど出ましたですね、うさぎ島、猿が島に行って魚釣りをし、そんなようなことをして育ちました。こういう環境にあって実際、幡豆の3つの学校は、ずっととても穏やかで、いい小中学校できていま

す。そして、そういう学校でずっとあってくれることを心から願っておりますので、また皆さん御協力をよろしくお願いいたします。

**○司会（天野会長）**

ありがとうございました。そのほか。どうぞ。

**○中町（マキ様）**

こんばんは。僕は中町のマキと申します。幡豆のPRを僕が代わりにさせてもらっていいですか。

最近、家を建てて外構工事を今やっているのですが、コンクリートを張りたくなくて、やっぱり大地にちょっと草とか生えていてほしいですね。外構屋さんに相談して、やはり地元の建材が使いたいと思っていたのですよ。近くにある石材屋を探して、地元の石が欲しいんですよと言ったら、そんなもの使った事ないと言うんですよ。99%輸入物らしくて、住宅の建材に使われる石が。そうか、ないのかと思って残念に思っていたのですが、近くで、僕の知り合いの人が今つくっている家で幡豆石を使って床を仕上げていたんですよ。すごい良いと思って、こういうのをやりたかったんだぞと思って、どこの造園屋がやったんですかと聞いたら、三重県の造園屋さんと言うんです。

僕は、地元の外構屋さんに頼んでいるのに、幡豆石なんか仕入れるところがわからないと言うんです。だから、三重県の造園屋さんに聞いて、幡豆の石切り場を教えてもらって、そこに問い合わせをしたら、ものすごく安く売ってくれたのです。それで僕は、幡豆石を今、駐車場とかアプローチに敷いているのですが、すごくかっこいいんですよ。今、ほとんど新築の家の95%ぐらいは、やはりコンクリートを打つんですよ。そういう自然石は人気が無いらしくて、規格がそろっていないので。だけど、規格がそろっていないものが今、やはりうまく並べていくとかっこよくできたりするので、幡豆石は安いし、すごいいいので、もっと使ったらいいのにと思ったところです。

以上です。ありがとうございます。

**○司会（天野会長）**

はい、ありがとうございます。

何かPRできるようなことってあるでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、次、何か質問ある方。よろしいでしょうか。

それでは、少し予定時間よりも早いですが、ここまでとさせていただきます、市からのほうで何か連絡事項等ありましたらよろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

進行に御協力をいただき、ありがとうございました。それでは、事務局へお返しいたします。

**○細田秘書広報広聴課長**

天野会長ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、市長がお礼の御挨拶を申し上げます。

**○中村 健市長**

皆さん、今日は長時間おつき合いいただきまして、どうもありがとうございました。

幡豆地区の方々と僕がお話をしていて感じますのは、特にお年を召した方の中で多いのは、幡豆地区がどんどん衰退していってしまうので、何とかしてほしいという趣旨のお話がすごく多いです。人口が減少することを衰退するというのであれば、確かに衰退なのだと思います。中心市街地に比べて、確かに幡豆地区の人口の減少率の方が大きいのは間違いないですが、ただ、僕はそうは思っていないくて、人口が減少するのは例えば、都心から離れているとかいろいろな理由があるのですが、必ずしも地域の魅力が無いということではないというように思っています。

今、市外から西尾に移り住んでくれた若い子たちが5人ぐらい多分、今日、来ているのですが、なかなかこういう行政の平日の懇談会に来てくれるということは、ほかの地区でもほとんどなくて、それだけこの幡豆地区を愛して何とかしたいという若者が来てくれているという証拠だと思いますし、市外から来てくれた子に限らず、元々幡豆で生まれた方の若者もすごい頑張ってくれているというように思っています。ですので、確かに人口減少対策も必要ですし、皆さんの生活がなるべく不便にならないようにというところは、我々、行政もやっていくのですが、皆さんにお願いしたいのは、決して幡豆の魅力がないとか、そう思わずにそこは皆さん、幡豆が好きだと思いますので、自信を持っていただきたいなというところは節にお願いしたいというように思います。

今日は、顔を合わせての懇談会となりましたけど、なかなかこういう多人数の場では、意見が言いにくい方もいらっしゃると思います。市としては、市民の皆様の声をしっかり集めた上で、政策決定の参考にさせていただきたいということを考えておまして、こういう懇談会以外にも、投書とかメールで御意見、御質問いただく市民の声という制度もありますし、また、通常、行政の行う懇談会ですと、場所や時間もこちらが指定して来てくださいという形にどうしてもなりがちであって、市民の皆さんからするとちょっとアウェイな感じもあったりとかしますので、今年度から出張・市長のどこでもトークというものを始めまして、お申し込みいただく方の条件として、10人以上という制限だけはつけさせていただきましたけれども、ただ、場所も時間も決めていただければ僕のほうが出向いてお話しをさせていただきますということも、今年度から始めましたので、また有効に御活用いただきたいなというように思います。

今後とも、皆様方のお知恵をお借りしながら、市政発展のために頑張ってまいりますので、御理解、御協力をお願いいたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

#### ○細田秘書広報広聴課長

それでは、最後に事務局から御連絡いたします。

本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事業の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

もう1点、今、市長からお話をしましたように、市民の声ですとか出張・市長どこでもトーク、今日、パンフレット等配布しておりますので、また御活用いただければと思います。よろしく申し上げます。

それでは、これをもちまして市長と語る市政懇談会幡豆地区を閉会いたします。

交通安全に御留意いただき、お気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。